

N P O 法人共働のまち大野城

令和 4 年度事業報告

令和 5 年 5 月

令和4年度を振り返って

令和4年度も活動へのあたたかなご支援をいただき、本当にありがとうございました。地域の人たちやさまざまな団体とのつながりが増え、イベント開催や新たな事業展開構築への第1歩を踏み出し、順調に成長を続けることができました。

令和4年度よりスタートした中期基本計画に基づき、組織基盤を見直すとともに、「新たな挑戦」をテーマとして積極的に事業に取り組み、地域とつながることで団体として大きく成長した1年でありました。

一方で法人の活動が広がるにつれ、時代とともに変わる環境や多様化する地域課題に団体としてどのように対処すべきか考える機会も増えてきました。基本構想で掲げた使命「パートナーシップによるまちづくりに寄与すること」を果たすために、法人として勢いを衰えさせることなく進むには、更なる組織の基盤強化が必要と考えています。

皆様のご支援や外部アドバイザーの力を借りながら、立ち止まり、振り返りながら未来へ向かって体制を整えていきたいと思っております。

引き続きあたたかいご支援・ご協力をいただけますと幸いです。

令和5年4月

NPO法人 共働のまち大野城
理事長

穴井 芳春

団体概要

名 称 NPO法人共働のまち大野城
設 立 平成31年4月1日
所在地 福岡県大野城市南ヶ丘5丁目9番1号

1.使ってバンク「暮らしのサポート事業」

令和4年度 事業計画

- Plan -

- 各区や各コミュニティで開催されている会議などへ参加し、事業説明会を実施する。また、イベントへも積極的に参加し、PRグッズを活用することで事業周知活動も行っていく。
- おタスケさん新規獲得のメインターゲットを若い世代（主に10代～20代）とし、新たな周知啓発の取り組みを行う。具体例として、おタスケさん獲得に向けた登録会などを検討・実施し、おタスケさん（担い手）を発掘する。
- おタスケさんの相互交流を深めるための交流会を年2回（7月・1月頃）実施し、地域活動の意欲を向上させ、活動の場を広める。
- 活動のリスト化と管理を行い未活動のおタスケさんを減らし、幅広く活動の場を提供することで、おタスケさん全体の活動件数の増加へつなげる。
- 区、地域とのつながりのある民生委員との情報共有を行うことで、相談しやすい環境を構築し、相談件数及び活動件数の増加を図っていく。
- 過去の利用者を洗い出し、利用者フォローに努めることで、相談件数及び活動件数の増加を図るとともに、地域の中での住民同士のつながりを広めていく。

事業報告

- Report -

事業周知について

事業説明会開催数

14回

各地区において事業説明会(登録会)を開催し、事業の周知活動を行った。また、イベント「大野城市ふくしフェスティバル 2022」に出店参加し、PRグッズを活用しながら事業PRに努めた。

担い手発掘

おタスケさん登録者

新規

総数

26名

213名(前年度218名)

※2年間未活動の方へ継続の意思確認を行った。

さまざまな理由から31名の方が登録解除となった。

若い世代のボランティア活動を推進する手法として、おタスケさんの活動を漫画化し、近隣の学校へも配架するなど新たな周知方法を試みた。



【実際の活動を漫画化】

各地区おタスケさん登録者内訳

南地区

70 名
(75 名)

中央地区

50 名
(47 名)

東地区

43 名
(45 名)

北地区

50 名
(51 名)

おタスケさん交流会の開催

おタスケさんの相互交流を深めるためにおタスケさん交流会を開催した。交流会では地域活動に対する意欲向上を図るために、認知症サポーター養成講座などを企画した。



【おタスケさん交流会の様子】

成 果

- Achievement -

生活支援コーディネーターとの交流会の開催や各区と情報共有を図りながら連携することで、相談件数が増加した。また、おタスケさんの活動をリストアップし、活動の偏りをなくしてバランスよくコーディネートしたことで活動の幅が増え件数の増加につながった。

相談件数

2,253 件
(前年度 1,920 件)

目標 2,000 件

達成率
113%

活動件数

1,988 件
(前年度 1,681 件)

目標 1,800 件

達成率
110%

【活動の様子】



課 題

- Task -

- ① 地域や、活動内容によっては今後のおタスケさん（担い手）不足の懸念がある。
- ② おタスケさん活動を通して市民同士の共助力を高める必要がある。

2. 市民公益活動促進プラットフォーム

令和4年度 事業計画

- Plan -

- アプリでの登録を推奨し、アプリ内でのポータルサイトやポイント交換機能を周知することで、ポータルサイトのアクセス数増加につなげ、登録者の活動参加を促進する。
- 引き続き登録団体との連携を図り、情報収集を行いながら新規団体の発掘及び登録へとつなげていくことで地域活性化を図る。
- 各地区の小中学校を対象に、自主事業「わくわくゴミ拾い事業」と連携することで、若い世代のまどぶら登録者数の増加を図るとともに、地域活動への参加を促進する。

事業報告

- Report -

プラットフォーム連絡会議の開催

今年度の連絡会議では、44 団体（46 名）の参加があった。プラットフォーム事業の理解をより深めるとともに団体同士の交流と活性化を図るため、プラットフォームに関するゲーム（双六形式）を実施した。連絡会議後のアンケートでは、事業の理解ができたなど高い評価を得た。

【連絡会議の様子】



登録団体数

83 団体
(73 団体)

目標 90 団体
達成率
92%

活動件数

5,392 件
(前年度 4,287 件)

目標 5,000 件
達成率
108%

成果

- Achievement -

アプリ登録者数増加

事業の説明会時に、アプリ登録を推奨したことにより令和4年度はアプリ登録者が 182 名増加したことで、多くの方へ情報を提供することができた。

地域活動への参加促進

小中学校や区と連携しながら、若い世代の地域活動への参加促進を図った結果、まどぷら登録者が増加し、地域活動に対する意識向上につながった。

まどぷら
登録者数

4,995 名

(前年度 3,857 名)

目標 4,500 件

達成率

111%

ポイント付与数

24,712 P

(前年度 17,901P)

目標 18,000 件

達成率

137%

【小中学校との連携】

6 月	平野中学校	197 名参加
11 月	大野南小学校	135 名参加
3 月	大野南小学校	135 名参加

【ポイント付与の様子】



【活動の様子】



課 題

- Task -

- ① 区や行政と連携して、新規団体登録に向けて事業の周知強化が必要である。
- ② 活動登録件数を増加させるため、活動内容の見直しなど団体のフォローを行い、地域活動の参加促進へつなげる。
- ③ 連絡会議後のアンケート結果をふまえ、団体同士の交流を重視した内容の見直しが必要である。

3. サロン事業

令和4年度 事業計画

- Plan -

- 関係機関との情報共有を図り、地域住民のニーズに応じたサロンを展開し、誰でも参加しやすい場を提供する。
- 広報誌やSNSを利用した周知活動を行うとともに、他の指定管理事業（プラットホーム事業）と連携し、新たなサロンボランティアを発掘していく。
- 既存サロンに対し、サロン以外の活動の場の提供や支援を行い、地域活動団体として自立できるようサポートする。
- 飲食や発声を伴うサロンは、今後も開催中止や制限が予想されるため、従来の形での内容を見直し、新たな取り組みができるよう団体を支援する。

事業報告

- Report -

活動場所の提供

サロン件数

25 件

（前年度 24 件）

目標 25 件
達成率
100%

新規 ボランティア数

17 名

（前年度 13 名）

目標 10 名
達成率
170%

【多様な世代が交流できるサロンの開催】



今年度は健康系（ヨガ）・子育て系（リトミック）が新規サロンとして開始し、多くの地域住民が参加した。また新型コロナウイルス感染対策を実施しながら、飲食や発声をともなうサロンも再開され、地域の人たちの活動や、集まる場所を提供することができた。

成 果

- Achievement -

SNSを活用し、新規サロンの紹介やサロンカレンダーをタイムリーに発信したことで参加者の増加につながった。

参加者数

6,284 人
（前年度 3,470 人）

目標 4,000 人
達成率
157%

課 題

- Task -

- ① サロン事業の趣旨に沿った団体の育成ができていない。
- ② 従来の情報発信媒体に加えSNS（インスタグラム等）での発信強化が必要である。

4. 天体事業

令和4年度 事業計画

- Plan -

- 令和4年度は「スタードームまどか」が設立30周年であるとともに、「スタードームまどか」が命名されて5周年であるため、記念事業を実施しスタードームまどかを幅広く周知することで、来館者数の増加へとつなげていく。
- 市内で行われるイベント（おおの山城大文字まつり、産業展等）に積極的に参加するとともに、ホームページやSNSの活用を行い、広く地域住民へ周知していく。
- 小中学校へ出張講座を通して、青少年育成へとつなげていく。
- ボランティア交流会を開催し、ボランティアの登録者を増やしていく。
- 天文科学講座（工作）や天体観測会を各コミュニティセンターで開催し、事業内容を広く周知していく。

事業報告

- Report -

実施回数

56 回

（前年度 56 回）

目標 65 回

達成率
86%

新規ボランティア数

2 名

（前年度 2 名） **総数 50 名**（前年度 48 名）

目標 2 名

達成率
100%

青少年の育成

7月～10月に大野北・下大利・御笠の森・月の浦小学校の“放課後こども事業ランドセルクラブ”において出前講座を実施し、124人の参加者へ太陽メガネの工作と太陽観測をおこなった。

スタードームまどか設立30周年記念イベント

11月8日（火）の皆既月食と合わせ“スタードームまどか”設立30周年記念イベントを実施した。小中学校や地域住民へ広く周知を行った結果、当日は303人が来場し、“スタードームまどか”をPRすることができた。



出張星空観望会の開催

ひろく天体に興味を持ってもらうため、各地区で講座やイベントを開催した。特に南地区で開催した出張星空観望会では 237 人の来場があった。

成 果

- Achievement -

参加者数

4,410 人

(前年度 1,697 人)

目標 3,000 人
達成率
147%

「おおの山城大文字まつり」と「産業展」の会場で太陽観測会を実施し目標を大きく超える参加者数（2,204 人来場）となった。また“スタードームまどか”とイベントの周知を行ったことで星空観望会の来場者数の増加につながった。



星空観望会



産業展



おおの山城大文字まつり

課 題

- Task -

- ① 雨天・曇天時で星空観望会が中止になった際の室内イベントの企画・運営方法の見直し、天候に左右されない工夫が必要である。
- ② ボランティアのスキルに合わせた育成方法の検討や、ボランティア同士の交流を円滑に行う場の提供が必要である。

団体等への助成事業

5. コミュニティ活動応援ファンド事業

令和4年度
事業計画

- Plan -

- 令和3年度に引き続き研修及び視察を実施し、職員のスキルアップを図る。
- ファンド事業報告会の内容を検討し、市民の地域活動への参加や、新たな団体の相談及び獲得につなげる。
- ファンド事業活用団体などの地域団体を対象にアンケート調査を実施し、事業の見直しを行うとともに審査会ならびに申請書類等の見直しをおこなう。
- さまざまなイベント等に参加し地域団体とのつながりをさらに広げ、新たな申請団体発掘に努める。

事業報告

- Report -

申請件数

7 件

(前年度3件)

目標5件
達成率
140%

【令和4年度の申請募集期間】

第1期(令和4年2月1日～2月28日)	5件
第2期(令和4年6月1日～6月30日)	2件

ファンド事業団体紹介



団体：にゃつとわーく(申請3年目)
事業名：心をひとつにきれいな街づくり



団体：スペースドリーム大野城(申請2年目)
事業名：宇宙の学校®



団体：おとなりシップ(申請1年目)
事業名：おおのじょう まどかの醸成事業



団体：おやのかい MIRAI(申請1年目)
事業名：子育てで少し悩まれている
保護者のサポート事業



団体：NPO法人 route(申請1年目)
事業名：安全なまち大野城事業



団体：スマイルフレンズ(申請1年目)
事業名：ママ友サポート&子育て応援事業

ファンド事業令和3年度実施報告会開催について

6月18日（土）大野城心のふるさと館にてファンド事業令和3年度実施報告会を開催した。実施報告会では3団体による報告、また地域活動への参加促進を図ることを目的に講演会を開催した。



事業報告会の様子



NPO 法人改革プロジェクト
立花氏による講演会

大野城市コミュニティ活動応援ファンド事業
令和3年度 実施報告会 参加無料

日時：令和4年 6月18日（土） 10:00～12:00
場所：大野城心のふるさと館 2階 講座学習室

<令和3年度 実施報告会>
第1部
・米町 人とねこの幸せの会（人とねこの関係のありかについて）
・ONQ-JQにやうとわく（ONQ-JQの活動について）
・スペースドリーム大野城（子育て支援について）
相談会も同時開催

<講演会>
第2部
「市民の力とコミュニティで
まちを元気にしよう」
講師：立花 祐平 氏
（NPO法人改革プロジェクト代表理事）

※お問い合わせ先は、大野城市コミュニティ活動応援ファンド事務局です。
大野城市コミュニティ活動応援センター（大野市コミュニティセンター内） 0502-5565-0088
大野市コミュニティ活動応援センター（大野市コミュニティセンター内） 0502-5565-0089
大野市コミュニティ活動応援センター（大野市コミュニティセンター内） 0502-5565-0090
大野市コミュニティ活動応援センター（大野市コミュニティセンター内） 0502-5565-0091
大野市コミュニティ活動応援センター（大野市コミュニティセンター内） 0502-5565-0092

事業の見直しについて

ファンド事業団体を対象にアンケートを実施し、申請書を分かりやすく変更し WEB 申請を可能にした。また申請期間を見直したことで、申請団体のフォローの充実化や事務作業の効率化につながった。

成果

- Achievement -

新規相談団体数

4 団体

（前年度 5 団体）

さまざまな団体と連携しながら事業周知を図ったことにより、新規相談へとつながった。

職員のスキルアップについて

他市への視察研修や公開審査会などへの積極的な参加により、団体への支援方法など学ぶことができ、職員のスキル向上につながった。

課題

- Task -

地域活性化のためにファンド事業団体や他機関と連携しながら、新たな団体の発掘を行う必要がある。

6. まちづくり推進事業

令和4年度 事業計画

- Plan -

- 積極的に地域のイベントに参加し、団体や企業との関係性を構築する。
- まちづくりを推進するために地域団体と連携し、イベントや事業を展開する。
- 中間支援組織として、市民や団体同士をつなぐことでまちづくり推進を図る。
- コミュニティ運営協議会や地域（各区）と共働し、各コミュニティにおける地域課題解決に向けて取り組む。

事業報告

- Report -

- ① 大野城市市制 50 周年記念イベント「下大利新駅舎プレオープン事業」や「まどかマルシェ」に参加し、イベントを通して地域団体と連携しながら関係性を構築した。
- ② コミュニティ運営協議会と連携し、各コミュニティの特色を活かした地域活性化事業を行った。

開催事業

6 回



東地区コミュニティ運営協議会と共催
東コミ Xmas event



大野城市市制 50 周年記念イベント
下大利駅新駅舎プレオープン事業



春日原会場・市役所会場 2 か所で参加
まどかマルシェ

成果

- Achievement -

イベント開催や事業を展開することで、様々な地域団体と連携しつながることができた。

課題

- Task -

- ① 各コミュニティにおける地域ニーズの把握が必要である。
- ② 中間支援組織として関係機関との情報共有及び連携の強化。

7. 相談・養成支援事業

令和4年度 事業計画

- Plan -

- ボランティア養成講座を開催し、地域の担い手の養成支援を行うことで、地域活動の活性化を目指す。
- 地域活動をしている個人や団体に向けての相談会を開催し、パートナーシップ活動支援センターが地域の相談窓口であることを周知していく。
- 他県、他市で開催される研修等に参加し、ボランティア相談及び養成支援に対するスキルアップを目指していく。

事業報告

- Report -

相談会実施回数

4 回

(前年度 1 回)

目標 3 回

達成率

130%

【相談会内訳】

概 要
第 1 回 (ファンド事業実施報告会と同時開催)
第 2 回 (プラットホーム連絡会議と同時開催)
第 3 回 (主催イベント『Meets Festival』と同時開催)
第 4 回 (主催イベント『みなみマルシェ』と同時開催)

ボランティア講座

1 回

大野南小学校 3 年生に

「ボランティアについて」の講座を実施。

まちづくり相談会の様子



大野南小学校 3 年生
「ボランティアについて」の講座

成 果

- Achievement -

相談件数

42 件

(前年度 16 件)

【内訳】

団 体	14 件
個 人	28 件

大野南小学校 3 年生に向けて、「ボランティアについて」の講座を実施した。講座をきっかけに、自発的に市民活動に参加する意欲を向上させ、次世代の市民活動の担い手の発掘・育成に寄与した。

課 題

- Task -

- ① パートナースhip活動支援センターの役割を明確にし、まちづくり活動の支援の場であることの周知を強化する必要がある。
- ② 団体の支援に関して専門的な相談にも対応できるよう職員のスキルアップを図る。

8. 情報発信・提供事業

令和4年度 事業計画

- Plan -

- さまざまな情報ツールを活用し、法人の活動内容や取り組みの情報を積極的に外部に向けて発信する。
- 積極的に地域に出向き、地域や地域活動についての情報収集を行い、市民や団体などそれぞれのニーズに合わせてまちづくりにおける情報を提供する。
- より多くの人に周知するために既存の情報媒体を見直し、効果的な情報発信を行う。

事業報告

- Report -

更新回数

ホームページ

206 回

(前年度 198 回)

Facebook

124 回

(前年度 101 回)

LINE

65 回

(前年度 42 回)

情報発信について

法人の活動や、地域で活動している団体の情報など、まちづくりに関する情報をさまざまな媒体を活用しながら発信した。



LINE にて
イベント情報など発信

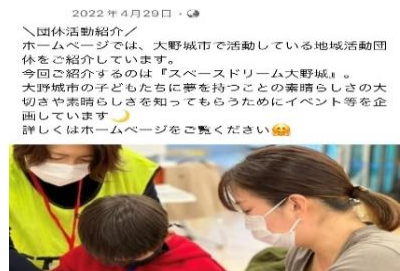


2022.4.10

助成金情報：地域に密着した多様な生活支援活動を応援する助成

社会福祉法人福岡県共同募金会より、生活に困窮される方々の支援や相談や 見守りなど、幅広い範囲で福祉課題解決に取り組む団体を支援する助成金の募集 です。※応募条件として、赤い羽根共同募金の一環である「ふくおか課題解決 応」[...]

ホームページにて
助成金情報など発信



Facebook にて
地域活動団体の紹介



YouTube にて
事業紹介

共働のまち大野城のリーフレット完成！

法人の認知度向上を図るために、リーフレットを作成し、館内掲示及びイベント開催時に配布した。



情報発信媒体の見直し

広く活動を知ってもらうため、Instagramの開設準備を行った。

成果

- Achievement -

イベント開催時にSNSツールの周知を行ったことにより、ホームページ及びすまっぼんの閲覧数、LINE友だち登録者数が増加し、より多くの人に情報を提供することができた。

ホームページ
閲覧数

11,819

前年度
4,189

すまっぼん
閲覧数

61,554

前年度
46,778

LINE 友だち
登録者数

374 人

前年度
251 人

課題

- Task -

- ① ニーズや情報発信ツールに合わせて内容の整理を行う必要がある。
- ② 時代とともに進化する情報発信ツールに対応できるよう、職員のスキル向上が必要である。

9. 買い物代行「ごきげんお届け便」

令和4年度 事業計画

- Plan -

- 区などと連携した説明会の実施及びSNSなどを活用した情報発信や、広報物・PRグッズを活用した事業周知を行うことで、引き続き新規登録者及び利用注文件数の増加を図っていく。
- 利用者へヒアリングを行い（カタログ配布時など）、利用者の要望に沿ったサービスの向上を図っていく。令和3年度にリニューアルしたチラシ及びカタログに関する意見等を収集し、更なる利用者の満足度向上及び利用促進を図る。
- イオン九州株式会社（イオン大野城店）との協議結果、令和5年度からの配送料有料化に向け、令和4年度は登録者に対して周知を行っていく。
- 買物支援先のリストの活用方法を検討し、買物支援事業の充実を図る。

事業報告

- Report -

買物支援事業の充実

ごきげんお届け便事業以外の新たな買い物支援の一つとして『買い物支援ガイドブック(仮)』の作成にあたり、地域の企業216件を訪問し聞き取り調査を実施した。

事業説明会

区を通じてシニアクラブ定例会へ参加し、チラシなどの広報物を用いて“買物支援事業”の説明会を実施した。

登録者に対しては、令和5年4月1日からのごきげんお届け便の配送料有料化について周知を行った。

利用登録者数

新規

28 名

(前年度 52 名)

目標 50 名
達成率
52%

総数

123 名

(前年度 142 名)

イオンネットスーパーのシステム改修により、一時利用停止の期間があったため、新規の登録受付を停止していたため、目標値には届かなかった。

成 果

- Achievement -

利用注文件数

目標 560 件

達成率

129%

722

(前年度 584 件)

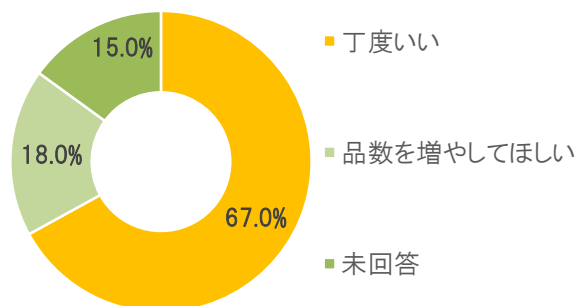
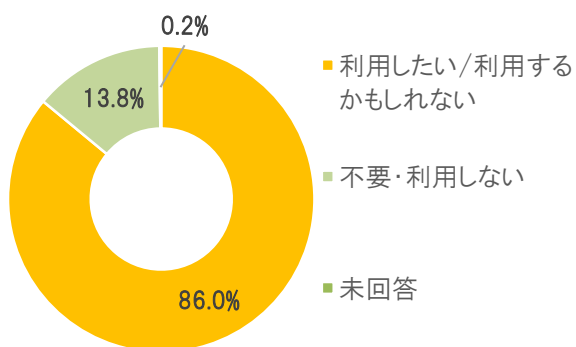
- ① カタログ配布時に利用者にヒアリングを行ったことで利用注文件数の増加につながった。

- ② 登録者を対象としたアンケート調査を実施し、約 8 割の利用者が今後も継続して利用したいという結果となった。

【アンケート結果】

Q,ごきげんお届け便を今後も利用したいか

Q,カタログについて変更してほしい点はありますか



利用者の声

- ・ 近所のスーパーが閉店したので助かっている。
- ・ お米など重たいものをお願いできるので助かっている。
- ・ 自分で買い物できないから今後もお願いしたいと思っている。
- ・ 重い物や嵩張るもの（洗剤やトイレトペーパー）を中心に注文している。

課 題

- Task -

- ① 1 件当たりの注文にかかる時間・人員の負担が大きい。
- ② 『買い物支援ガイドブック(仮)』完成後の活用の検証。

10. コミュニティセンターの管理運営及び施設貸出事業

令和4年度 事業計画

- Plan -

- “with コロナ時代”においても稼働率を上げる新たな取り組みを検討する。施設の周知活動を強化し、地域にある身近な施設として認識されるよう業務に取り組んでいく。また、利用者ニーズに合わせた環境整備を行い、利用者が安心して快適な満足できる「館づくり」を培っていく。
- 市内外の関連施設の視察や各種研修会を実施し、業務改善や自主事業の提案につなげる。市内外を含めた関連施設の利用サービスにおいて、参考となるサービスを取り入れ、来館者への対応改善へとつなげていく。
- 災害時、全職員が迅速な初動対応ができるよう訓練を継続していく。

事業報告

- Report -

館づくり

利用者人数

405,727 人

(前年度 408,008 人)

目標 400,000 人

達成率

101.4%



【シールラリー】

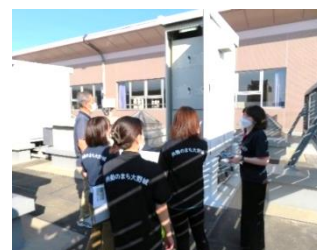


【キットパスアート】

コロナ禍の中、前年度と同様に館内利用者の検温や施設の消毒等については徹底した対応を行った。近隣の中学生へ施設の窓ガラスにキットパス（水性クレヨン）アートの描画依頼をし、季節に合わせた飾りつけを行うなど、施設のPR・イメージアップに努めた。また、施設の利用促進を図るため、夏休みこどもシールラリーを開催した際には、コミュニティセンターのリーフレットを配布し施設の周知に努めた。

自主点検

施設内外の点検を行い、危険な場所や予防保全が必要な箇所の改善を行った。また、安全衛生保全を目的とした衛生委員会では、全てのコミュニティセンターの定期巡視を実施し、各コミの災害時設備を確認するなど、利用者の安全を確保するため情報を共有した。



訓練等の実施

災害時に備え全職員が防災訓練や消防訓練に参加し、避難所開設・要配慮者受入および非常用仮設マンホールトイレの設置等の対応ができるよう訓練した。また、「非常時発電機電源切替手順マニュアル」に沿って自家発電機の操作手順を確認し情報共有を行った。

成 果

- Achievement -

- ① 2階の施設利用について、長時間の利用（条件付き）を可能にしたことにより稼働率が上がり、利用者数の増加につながった。

2階施設 稼働率

25.9%  前年度
17.9%

※ワクチン接種会場（南コミ・北コミ）を除く

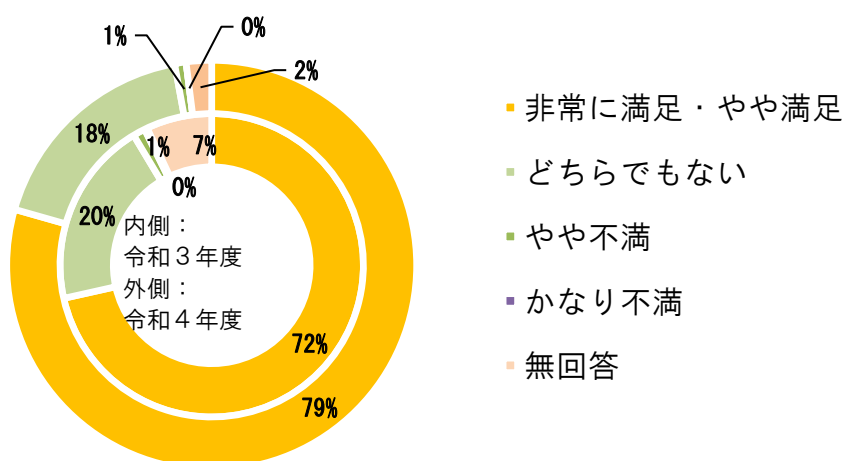
- ② 実務研修を実施し、対応力が向上したことで窓口へのクレームは0件となった。

クレーム件数

0 件(前年度2件)

- ③ 施設の利用者アンケート調査では、基本的なサービスにおいて、前年度のアンケート結果より満足度の高い結果となった。

【利用者満足度】



課 題

- Task -

- ① 施設の長時間利用が可能になったことを、さらに周知する必要がある。
- ② 長時間停電となった場合に備え、発電機への切替操作を確実に実行するため、実地訓練を行う必要がある。

その他目的を達成するために必要な事業

11. 自主事業

令和4年度
事業計画

- Plan -

- 各コミュニティの特性を活かしたイベント事業を開催する。
- マルシェやフリーマーケットなど、コミュニティセンターを活用した事業を展開し、地域の人たちが交流する場を提供する。
- 地域団体や企業との共働事業を実施し、地域活性化を図る。

事業報告

- Report -

自主事業

18 事業



参加者に好評！

資産運用セミナー



素敵なしめ縄ができました♡

しめ縄作り講座

担い手発掘・養成について

ボランティア
参加人数

47 人

イベントを開催するにあたり、ボランティアを募集し、活動の場を提供することできた。また幅広い世代のボランティアが参加し、担い手発掘・養成につながった。



みなみマルシェ in 南コミ

中学生やシニアクラブ、おやじの会の方々に声をかけ、当日は17人がイベントスタッフとして参加した。



スマホ教室・LINE 講座

中学生・地域住民の方々に声をかけ、12人がサポートスタッフとして参加した。



春の中央コミまつり

高校生・地域住民の方々に声をかけ、20人がイベントスタッフとして参加した。

成 果

- Achievement -

- ① 地域団体や企業と共働でイベントを開催することで中間支援組織としての役割を果たすことができた。

【共働・共催した地域団体並びに企業】

月の浦鉄道愛好会・公益財団法人おおのじょう緑のトラスト協会・Snow peak・一般社団法人 MONO 創り Lab・おおのじょうおとなりシップ・まどカフェ・おやのかい MIRAI・はまゆうワークセンター大野城 他



月の浦鉄道愛好会と共催

鉄道模型運転会 in 中央コミ



snow peak と共催

防災キャンプ



さまざまな地域団体とコラボ

Meets Festival

- ② 事業を通して高齢者の健康促進と地域の人たちが交流する場を提供することができた。
- ③ イベントを通して、法人の周知やコミュニティセンターの利用促進を図ることができた。

参加者数

5,060 人



高齢者の健康促進

「座ってできる健康教室」



当日は 100 人以上が参加

キッズフリマ



夏休み開催

親子 de 料理教室

課 題

- Task -

- ① 自主財源を確保できる事業の構築が必要である。
- ② 中間支援組織として地域課題解決につながる新規事業の検討が必要である。

12. 人材育成

令和4年度 事業計画

- Plan -

- 外部の研修を選別し、個々のスキルに合った研修を受講する。
- 内部研修を通して職員の意識統一を図り、組織力の強化を図る。
- 地域から信頼され、頼られる人材になるよう人事育成計画及び採用計画を策定する。

事業報告

- Report -

外部研修

17 件



春日警察署生活安全課による
防犯訓練（不審者対応）

視察

6 件



SDGs 視察研修

内部研修

6 件



久留米市市民活動センター
主催「みんくる交流会」

成果

- Achievement -

- ① 視察では他のNPOや市民団体の活動を知ること、中間支援組織としてのノウハウを習得することができた。
- ② 研修で得た知識や経験を活動に活かして、地域との信頼関係を築くことができた。

課題

- Task -

- ① 引き続き、組織全体のボトムアップが必要である。
- ② 人事評価制度と育成計画の連携が必要である。
- ③ 研修や視察などで得た知識・経験を発揮できる場の提供が必要である。

13. 自主財源の確保

令和4年度 事業計画

- Plan -

- 事業の報告や活動状況を積極的に発信することで信頼性を高め、新たな会員や寄付獲得に努める。
- 助成金などを検討し、財源確保に努める。
- 地域の団体や企業と協力し、イベントでの物品販売事業を検討する。
- 新たな収益源を獲得するための調査や研究を行い、自主事業を展開する。

事業報告

- Report -

財源確保

収 益

総 額 **¥ 3,105,140**

(前年度¥2,111,014)

収益内訳

自動販売機	996,490
イベント収益	552,550
支援金、その他	1,000,100
会 費	556,000

コミュニティセンターを活用したイベントの実施及び、さまざまな地域イベントで物品販売を展開し自主財源確保に努めた。また、北コミュニティセンターの空きスペースに自動販売機を増設し、利用者へのサービス向上を図るとともに自主財源を確保することができた。今年度は助成金や支援金の情報収集に努め、事業復活支援金 100 万円を受給することができた。また、他団体の調査や研究を行い、新たな収益事業の構築に向けて情報収集を行った。

会員獲得

新たな会員や寄付獲得につなげるため、イベントに参加し活動のPRに努めた。また、会報誌「つなぐ」を定期的に発行し、支援者との継続的なつながりを図った。



会報誌

正会員（個人）

36 名
(40 名)

正会員（団体）

30 団体
(30 団体)

賛助会員（個人）

101 名
(100 名)

賛助会員（団体）

13 団体
(12 団体)

課 題

- Task -

- ① 助成金申請は申請作業の負担が大きいうえに流動的なため、安定した自主財源の確保に向けた情報収集が必要である。
- ② 新たな支援者や会員を獲得するために活動の周知をおこなう必要がある。

人と地域をつなぐ

NPO法人共働のまち大野城



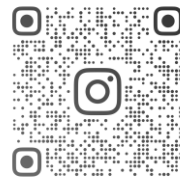
NPO 法人
共働のまち大野城 HP



LINE



Facebook



KYOMACHI_ONOJO

Instagram